

今後の調査研究（松江城天守の修理）

- (1) 令和の大修理に伴う調査研究(令和8年度～)
- (2) 昭和の解体修理の再検討と資料整理・公開（令和8年度～）



（昭和修理前）



（昭和修理後）

(1) 令和の大修理に伴う調査研究①

●屋根葺替に伴う天守瓦の調査研究

①松江城出土瓦の分類「別編1 松江城」2018年3月

- ・ **軒丸瓦**：瓦当文(巴左巻, 巴右巻, 家紋)、珠文数等で分類⇒全27種類
- ・ **軒平瓦**：中心飾り(宝珠, 下向三葉, 五葉, 橘, 蓮華)、唐草の形状で分類⇒全47種類



二之丸出土瓦
櫓復元参考資料

②松江城天守保存修理の履歴

★「重要文化財松江城天守保存修理工事報告書」1955年3月

- ・ 64,796枚のうち、39,927枚(61%)を新補瓦に取替え
- ・ 古瓦は附櫓、裳階及び二重屋根の東側に再利用、その他は新補瓦で葺替え

★「重要文化財松江城天守保存修理工事報告書」1982年3月

- ・ 昭和54年5月の雷雨で附櫓及び天守一層～五層までの瓦約100枚が破損
- ⇒ 附櫓、一重屋根は全面葺替え、その他は部分的に葺替え
- ※補修用瓦は備蓄瓦を利用したか？

★「平成3年度国宝重要文化財等保存整備補助金実績報告書」1992年3月

- ・ 平成3年9月、台風19号で天守及び附櫓の西側屋根の瓦約500枚が破損
- ⇒ 新補瓦(伏瓦350本, 冠200本, 沓巴5本, 軒巴谷用瓦左右10本)により葺替え

(1)令和の大修理に伴う調査研究②

③調査項目、内容

- ・瓦の破損調査、江戸期瓦の残存状況調査⇒再利用可否の検討
- ・瓦当面の文様分類調査⇒新補瓦の瓦当文様検討
- ・平瓦丸瓦等の刻印、墨書等調査⇒瓦の編年の手掛かりとする

④各段階の調査の方法

- ・工事着手までに、既存瓦の文様調査を目視で実施する
- ・解体工事に合わせて、実物を精査、必要な記録をとる



(2) 昭和の解体修理の再検討と資料整理・公開①

● 天守台石垣の調査研究

① 調査項目、内容

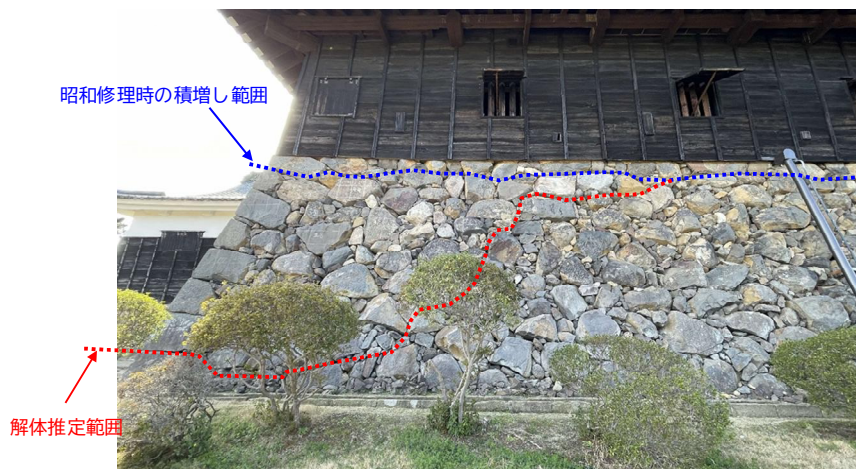
- ・ 昭和の解体修理範囲の再検討
- ・ 角石、築石の刻印および加工痕、表面調整の調査
- ・ 帯磁率調査など（未実施箇所を対象）

② 調査方法

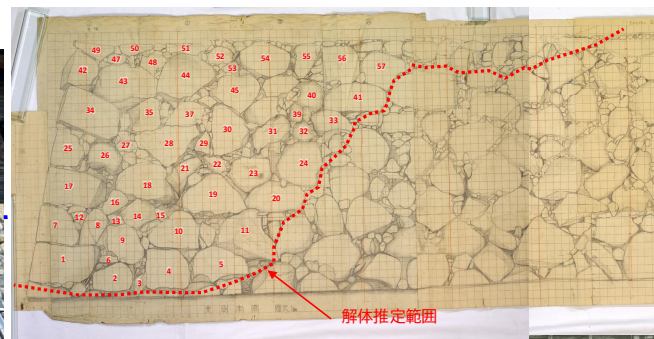
- ・ 松江歴史館所蔵の昭和修理時の資料と現況の比較検討により実施
- ★ 記録に無い江戸期の解体修理が行われた可能性も念頭に置いて調査



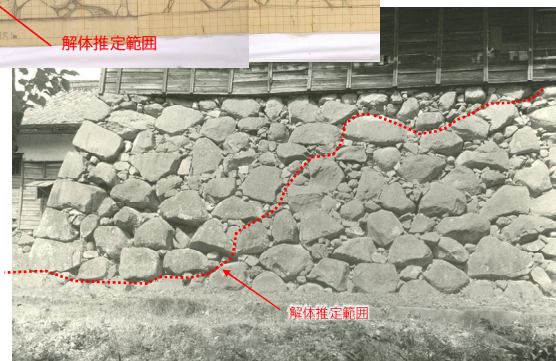
北西角石の刻印「地紙」



天守台石垣東面（現況）



昭和修理時の
立面図との比較



昭和修理前の
古写真との比較

(2) 昭和の解体修理の再検討と資料整理・公開②

●昭和修理資料の整理・公開

①昭和修理での新補瓦の型の確認調査

- ・瓦型の搜索、または地階備蓄瓦の調査により、新補瓦の文様を検討する



昭和新補瓦か「奈良 瓦宇製」

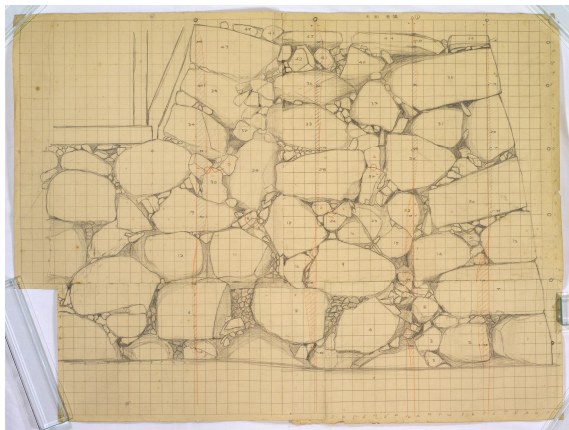


昭和新補平瓦「昭和25年29年修理」「山根」

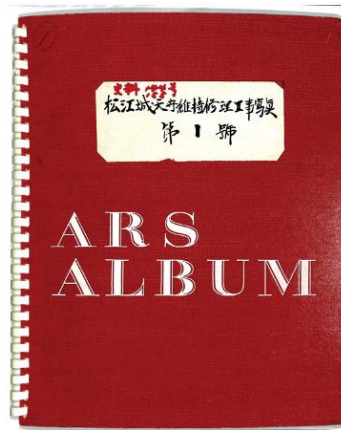


新補瓦(瓦分類に存在しない)

②松江歴史館収蔵の昭和修理資料の目録作成・デジタル化



天守台石垣立面図



松江城天守維持修理工事写真

